

月・火休館、祝日閉館 開館時間 9:30~17:00

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
			年末年始の休館 (~1月7日)			
6	7	8	9 陶芸教室 夜間開放	10 木育 フェス	11	12
13 祝日 閉館	14	15	16 陶芸教室 夜間開放	17	18	19
20 月火曜日は 休館日	21	22	23 陶芸教室 夜間開放	24	25	26
27	28	29	30 陶芸教室 夜間開放	31		

陶芸:素焼き・本焼き 2月以降(予定)

今月のご案内

NPO法人添別ブナ林自然環境保全活用事業振興協会
くろまつない木育フレンズ 主催事業 (ブナセンター協力)

冬休み木育フェス

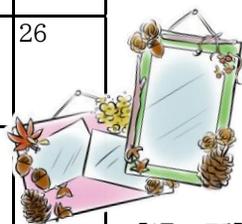
【日時】 1月10日(金)
【内容】 ①10:00~12:00 (工作)
「森のフォトフレームをつくろう!」

小学生以上 (小学2年生以下は大人同伴) 対象。
フレーム1個作成につき材料費100円。

②13:30~15:00 (講話&実演)
「遊ぶ、だけじゃない!子どもの成長、
学びにつながるおもちゃの重要性と選び方」
講師: ハンスオントーイ キンダーリープ 杉本英樹さん
小樽のおもちゃ屋さん。おもちゃの購入もできます!

大人~親子対象。参加無料。

【場所】 ふれあいの森情報館マナヴェール
【お申込】 1月8日(水)までにメールか
右のQRコードよりお申込ください。
メール: soibetsu.mvc@gmail.com



冬の食工房は おおにぎわい!

12月~3月は毎日の
ように味噌や豆腐づく
りが行われています。

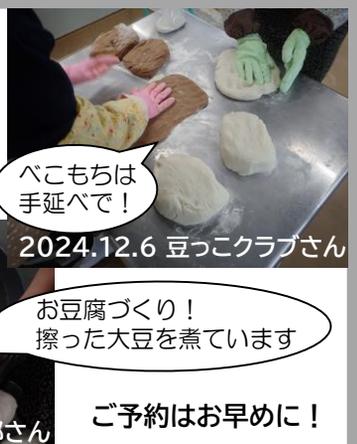
べこもち
は手延べで!

2024.12.6 豆っこクラブさん

お豆腐づくり!
擦った大豆を煮ています

2024.12.13 美食倶楽部さん

ご予約はお早めに!



~「渋谷式」かんじき 今年も貸し出します~

野鳥観察
アニマル
トラッキング...



黒松内名物「渋谷式かんじき」は、
故・渋谷吉尾爺が改良を重ねながら
完成させた桑材のかんじきです。
とてもはきやすく、軽くて丈夫。
ブナセンター周辺の林や森林公園
で、冬の森歩きはいかがですか?

期間:積雪がある間
貸出料:1足200円(1日)
※町内での使用に限ります

工房からのお知らせ

ブナセンターには3つの工房があります

木工房: 開館時間中は随時利用できます

陶工房: 初めてのの方は教室にご参加ください

食工房: 主に町の農家さんが冬期間に糶や味噌、
豆腐を作ります (興味のある方はまずは見学を)

使用料 210円 (大人1名2時間) ~
※65歳以上の町民は使用料免除
※別途材料費等がかかる場合があります

夜間開放 木・陶工房が無料開放になります

毎週木曜日 18:30~20:30

材料費は
かかります

陶芸教室 初心者向けの教室です (予約制)

毎週木曜日 13:30~15:30

18:30~20:30

参加費 粘土代 600円/1kg

完成までに
3回の来館が
必要です

工房利用についてくわしくはお問合せください



歌オブナ林天然記念物指定
100周年 (2028年10月
22日) まで、あと3年!

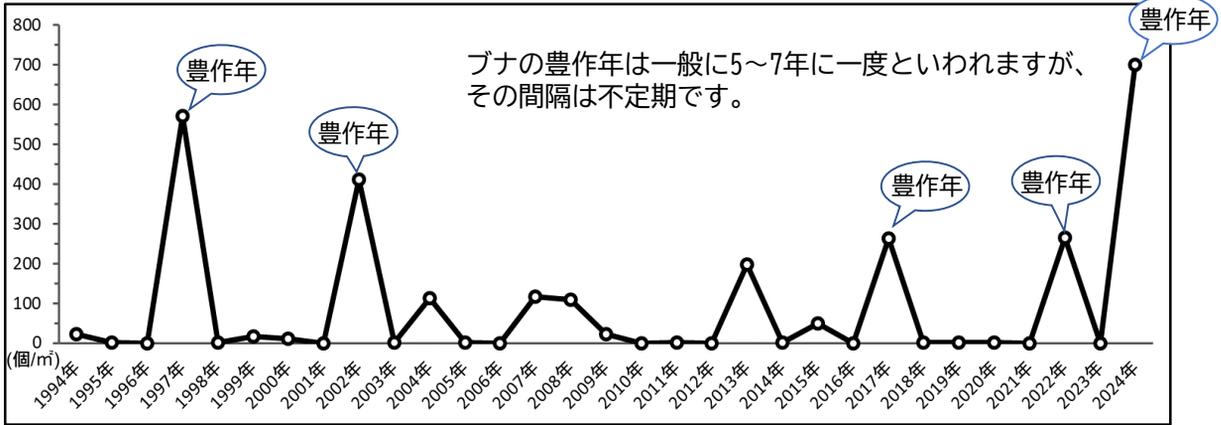


Facebookの
QRコードは
こちら

発行所: 黒松内町ブナセンター
〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1
TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440
MAIL bunacent@host.or.jp HP <https://bunacent.host.jp>
FB <https://www.facebook.com/kuromatsunai.bunacent>

ブナの実 豊凶の謎をひもとく

2024年はブナがとてつもなくたくさん実をつけ、ブナセンターで調査を始めた1994年以来最大の豊作年となりました。下のグラフでもわかるように、ブナは豊作・不作が年によって大きく変動する特徴があります。また、このような豊凶現象は、一本の木だけでなく広範囲でいっせいに起こります。この現象を「マスティング(masting)」と言います。



グラフ：1m²あたりのブナ健全果※の落下数（歌オブナ林） ※育つことができない実を除いたもの

ブナには、なぜこのように豊凶に大きな変動があるのか？

マスティングには、じつは「デメリット」な点が多いのです。それでも、ブナがマスティングをしているということは、それを上回る「メリット」があるからだと考えられます。

- たとえば… (デメリットな点)
- ・子孫を残す機会を減らしてしまう
 - ・一度に大量の花や実をつけるのに体力を消費し、成長や免疫力が低下する

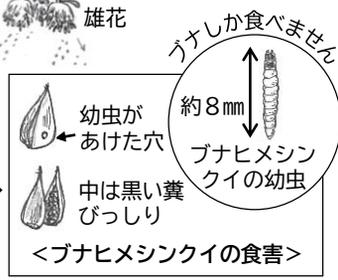
メリット① 花粉まみれがよいのだ！ (受粉効率仮説)

ブナは「虫」ではなく「風」によって花粉が運ばれる「風媒植物」です。ブナが実をつけるには、花粉が雌花にたどりつき、受粉しなければなりません。そこで、ほかのブナの木と同時にいっせいに開花することで、花粉量を増やし、受粉を成功させやすくしているのではないかと考えます。

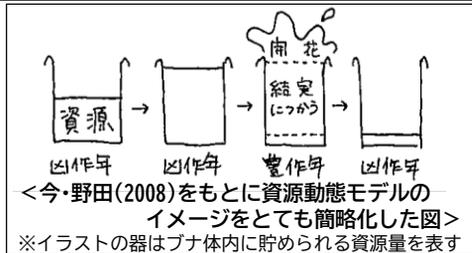


メリット② 食べ残しに賭ける！ (捕食者飽和仮説)

実を食べてしまう「捕食者」は厄介者。そこで、凶作年に「捕食者」を飢えさせて減らした後、豊作年に「捕食者」が食べきれないほどの実をつけることで、生き残る実を確保するという考えです。ブナの実の「捕食者」としてネズミやクマなどを思い浮かべますが、意外にも影響が大きいのは、昆虫(特にガの仲間「ブナヒメシンクイ」)のようです。もし豊凶がなかったら、ブナの実は毎年食べつくされてしまうのかもしれない。



このような豊凶の年変動は、どのような仕組みで起きるのか？



ブナが実をつけるには、まず花を咲かせなければなりません。その年咲くかどうかは、体内の「資源(開花や結実に必要な炭水化物などの栄養)」量によると考えられています。「資源」を毎年体内に蓄積し、ある量まで達した年に開花できます(これを、資源動態モデルといいます)。

豊凶が変動する仕組みはわかった！
それをどうやって、他のブナの木とタイミングを合わせているのかな…？

今(2009)によると、開花のタイミングを合わせる合図は、気象条件にあるようです。具体的にはブナの場合、「前年の4月中旬~5月中旬の最低気温が平年より1℃高いと開花せず、それ以下だと開花する」ことが分かっています。ただ、気象のほかにも合図となる要因は考えられ、今も解明のための研究が行われています。

花がたくさん咲いても、気候等の影響で結実しなかったり、結実してもブナヒメシンクイのような捕食者に食べられて豊作とまらない年もあります。子孫を残すための道のりは、厳しいですね… (な)